

蕨と鉄道 にぎわい創出PJ

～鉄道を中心とした地域貢献～

【団体名】わらてつまつり実行委員会

【担当部署】市民生活部 商工生活室

【提案型】自由テーマ

【協働の形態】補助

1. 事業の目的

わらてつまつりによる地域活性化を目指す。過去3回行ってきた「わらてつまつり」は、年々新たなイベントを盛り込みながら、楽しさを増している。協働事業として継続することで、一層の集客増加や内容の充実を見込み、更なる「にぎわいの創出」と「鉄道の街 蕨」を周知していく。また、蕨駅の様々な歴史や市内の鉄道模型の企業等とも連携し、それらを強みとして蕨を宣伝していきたい。

2. 実施内容

わらてつまつりの開催

日時：平成28年7月2日（土）10：00～17：00

3日（日）10：00～16：00

会場：蕨市立文化ホールくるる、旭町公民館、JR蕨駅他

参加者数：8,000人（2日間の延べ合計）

内容：わらてつまつりによる地域活性化

ミニ新幹線試乗会、保守車両試乗会、こども縁日、鉄道模型レイアウトの展示運転会、親子参加の模型づくり、物販（模型や鉄道用品）、模擬店（飲食物等）、ダンボール電車コンテスト、模擬店の購入でスタンプを集め抽選会、写真展

3. 役割分担

団体：事業の企画立案・スケジュール管理及び開催、関係各署との調整

市：公道の使用許可、運営費に係る補助、備品の貸出、会場内電源の仮敷設、広報紙等による周知など

4. 事業費と主な支出内容

(1) 事業費：総額704,406円（うち蕨市協働事業補助金300,000円）

(2) 支出の主な内容

イベント費、通信運搬費、人件費、広告料、保険料、雑費

5. 協働による効果

【わらてつまつり実行委員会】

4回目の開催により、蕨市、実行委員会、企業や商店の役割が明確になった。市の広報力と経済的支援、市民のボランティア力、そして、わらび駅開業120年に始まる「わらてつまつり」の鉄道に特化したお祭りのブランドを支えるJR東日本をはじめとする企業・商店の協力、すべてが必須のものであり、協働による効果を発揮した。

お祭りが開かれた2日間の蕨駅の乗降客数は普段より2,000人増え、市外からの大きな誘客効果となった。集客は延べ8,000人におよび、にぎわいの創出に効果があったと考えられる。

【商工生活室】

平成28年度もわらてつまつり実行委員会が中心となり、イベントの趣旨にご賛同いただいた多くの企業や団体の協力・連携のもと、一層充実した催しとなった。

当日は、鉄道好きの方や親子連れなど、毎年わらてつまつりを楽しみされているリピーターの方も多く訪れ、大盛況であり、地域活性化が図られた。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

【わらてつまつり実行委員会】

4回目を終えて、「わらてつまつり」が定着した感があるとともに、蕨駅の歴史を伝えることの大切さを痛感している。今後も展示コーナーを設けて、蕨の鉄道の歴史を伝え広めていきたい。そして新たな試みとして、「わらてつまつり」ができる地域貢献も考えていきたい。例えば土曜日しかないミニ新幹線乗車に、保育園などの団体に声かけをして貸切列車にしてみるなど、多くの子どもたちに楽しんでもらいたい。

「鉄道のまつり」という特徴を生かし、認知度を高め、市内外からの協力と更なる集客を促進し、さらなる賑わいの創出、地域活性化につなげていきたい。

【商工生活室】

7月開催となることから、引き続き、熱中症対策に取り組むとともに、限られたスペースでの実施となるので、円滑な運営となるよう工夫が必要である。

平成28年度 蕨市協働提案事業報告書



▲ミニ新幹線試乗会



▲旭町公民館1階 こども縁日



▲沖電気前保安区 線路保守用車両試乗会



▲くるる3階 Nゲージ展示運転会



▲くるる前屋台村



▲くるる3階 親子紙電車模型工作教室



▲「わらてつまつり」の歌を披露 蕨少年少女合唱団



▲段ボール電車コンテスト

